

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年2月22日

事業所名 児童発達支援センター 防府市なかよし園

チェック項目		はい	いいえ	解答なし	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・基準は満たしているが、とにかく狭い。不要なものは整理し、もっと安全に配慮した空間が必要。 ・利用児を人数分けして、支援をしている。 ・言語訓練時、部屋の外の様子や音が気になってしまう人もいる。 ・個別の対応ができるスペースがあれば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓に努め、できるだけ訓練スペースを広く維持できるようにしている。 ・言語訓練の部屋とプレイルームが隣接している為、防音することが困難ですが、現在カーテンなどを利用している。今後も改善できるように検討していきたい。 ・必要に応じて個別対応ができるように、相談室を利用したり間仕切りをして個室空間を作るなどの工夫をしている。
	2 職員の配置数は適切である	8	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・計算上は適切だが、支援が行き届いてるかという限界がある。けがのないよう、療育内容や職員の配慮など考え行っている。 ・来所する児童によっては足りていないのかなと思うこともある。 ・保育所等訪問支援事業を実施しづらい職員数。 ・配置基準は満たしていますが、場面によってはもう少し多いとよりよいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置基準は満たしているが重度障害児童を複数人受け入れる日については支援がきついことがあるようなので利用児童の人数配分を調整していくように工夫していく。 ・保育所等訪問職員が療育支援も兼ねている為、療育時間中の訪問が困難な時もあるが、訪問日を利用人数の少ない日や療育時間を調整している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープがない。トイレの手すりなど肢体不自由の児に対する環境づくりが不十分。 ・手すりがあればと思う時もあるが、あることで危険になるかとも思うこともあり悩ましい。 ・構造的には、分かりやすいが、バリアフリー化については、トイレ設備ができていないため改善すべきだが困難である。 ・パーテーション等で空間を区切りたいが、安全面の確保との。 ・片付けや用具の配直、直しなど細やかにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物設備に関しては老朽化している為、全てを改善することは困難だが色々と工夫しながら快適に療育が受けられるように努めている。

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限のことは行っているが、もっと環境整備が必要。毎回記入しているが、じゅうたん(カーペット)は不潔 ・トイレ、着脱する場所、遊ぶところの区切りがある方が良いのではと思う。 ・常に清潔には、消毒等を行って配慮している。 ・プレイルームのマットが清潔か気になる。夏場は汗っばい臭いが強くする。 ・子供個々の特性に合わせて、個別に部屋を使い分けて、時間を区切り、活動を提供するように努めている。 ・年数が経っている建物なので十分ではない所もありますが、掃除や整理せいとんに努めたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物・設備は老朽化しており療育の空間としては衛生的で安全というには十分ではないが常日頃から環境整備や消毒などを行いながら利用児の活動空間を快適に過ごせるように努力をしている。マットについては、汚染されるごとに取り換えて洗浄消毒を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では十分とは言えない。今後も業務の課題を明確化し計画的に改善していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中に業務改善のための見直しの機会を設定し課題を明確化し改善していきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0	2		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等の意見を踏まえ常に業務改善を進めていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにて公開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、ホームページにて評価の公表を継続していくと共に新しい情報の提供にも努めていく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は行っていない。 	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・業務中の実施には限界があると思う。10分、15分でできる内容は確保できているが、資質の向上のためには外部の力が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に参加したり、支援者研修等を企画、参加することでできるだけ専門性を高めるようにしている。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の課題は明確、障害特性に合わせた支援の検討は不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議やケース会議・検討会議等を通して計画の見直しを行うようにしている。 	

適切な支援の提供

11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・特性についてのアセスメントを充実させたい。 ・アセスメントツールについて他施設に教えて頂きたい。 ・遠城寺式、乳幼児分析的発達検査表を利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修を行い、子どもの適応行動についてのアセスメント力をアップさせていく必要がある。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	0	2		<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議やケース会議等を通して支援の内容を具体化している。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと具体的な計画の方が共通した支援につながると感じる。 ・ほのほのでみられるようになり、確認が手軽にやすくなったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画を常時確認しながら支援を継続している。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムは担当職員が決定しているが、会議等で全職員の意見などを聴き取るようにしている。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	1		<ul style="list-style-type: none"> ・マンネリ化にならぬように療育会議などで検討をしている。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	0	2		<ul style="list-style-type: none"> ・個別課題を設定し個別活動の時間を設定している。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷されたものを作るようになり、よくわかりやすくなった。 ・毎日終礼を～下記に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前か当日朝礼などで必ず打ち合わせをしている。必要な教材なども期日に余裕をもって職員に呼びかけて準備するようにしている。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・午前勤務のためその日行った支援活動内容について口頭で伝え、当日中に書面による報告書を送付している。 ・毎日終礼を行い、記録をとり不参加の職員も共有できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終礼時にはその日の支援内容で問題があった時は皆で検討し内容については共有している。また、記録を残すことで当日参加できなかった職員も必ず読み返すようにしている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々報告書を作成し、修正をしつつ、月末に最終報告を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の記録を具体的にとっている。記録を見返すことでケース検討会議等で支援の検証を行う事で支援方法の見直しを行って次の支援に繋げている。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12	0	2		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・場合によっては受け持ちが参加した方が児の状況がわかるのでよいと思う。 ・主として運転機能に関連する情報の伝達を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に児発菅が出席しているが必要に応じてより状況が分かる職員が参加するようにしている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	2	3		<ul style="list-style-type: none"> ・大体できているが、今後も各関係機関と定期的に会議などを行い連携に努めていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9	1	4		<ul style="list-style-type: none"> ・現在も関係諸機関との連携を取っているが更に深めていきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	6	4	<ul style="list-style-type: none"> ・直接子どもの主治医との連絡体制をとっていない。保護者を通じて対応方法を整備している。 ・保護者を介してではあるが、リハビリ計画書をもらうなど、お互いの存在はわかっている。発作等の緊急対応についてもフローチャートにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて保護者の同意を得ながら主治医との連絡を取っていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・移動支援を担当する職員との情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も情報共有と相互理解を図って行きたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援を担当する職員との情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援として今後も情報共有を継続していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・他のセンターが実施される研修案内がきたり、今回はコロナ対策について相互に対応を確認したりされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のセンターや事業所等と積極的に連携を図り研修等の参加を進めていきたい。

28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ防止として、現在受け入れ先から断られています。 ・現在はコロナにより実施できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も積極的に交流の機会を取り入れていく予定である。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・協ギ会子ども部会へコアメンバーとして参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参加を継続していきたい。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの困り感を中心に考えられるとよい。 ・連絡帳を通して報告している。 ・児童の担当者に対してできるだけ日々の様子を伝え、保護者に伝達していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時、保護者との連絡を取りながら課題について共通理解を深めていくようにしている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	10	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者のみ。 ・相談会の実施。他圏域では、ペアレント・トレーニングを企画されているところもある様子。 ・この様な運動を家庭でも行なうように一部の保護者に対しては支援したことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談会以外にも保護者の対応力が向上できるような支援を検討し企画できるように努めていきたい。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には、必ず説明を行い利用者の疑問に対しても丁寧に対応している。
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援計画書の策定と理学療法プログラムの立案にかかわっている。 	
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントメンター活動は実施している。メンター活動は年間計画をたてて配布している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立てて活動を継続していく。 ・リーフレットを関係機関等に配布している。

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・していない。 ・父母の会や保ゴ者会等はないが、年1回保ゴ者会を開催したり、相談会や摂食指導後の茶話会などで保護者同志が連携をとれるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流ができるような機会や場面を設定できるように努めたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・相談や申し入れに対して迅速且つ丁寧に対応するように努めている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	2		<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりに行事や活動内容について記載し毎月配布している。必要に応じて随時情報の提供に努めていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0	1		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報が漏洩しないように職員一同、言動には厳重に注意していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの伝えなかったであろうことを行動や表情、状況から推測し伝えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達については職員同士情報の共有に努めながら伝達する職員を統一して内容について差異がないようにしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	7	3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所での行事は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独では困難なため法人内の施設と一緒に事業運営を考えていきたい。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・あるものないものがある。周知や保護者協力の訓練は行っていない。 ・保護者に周知していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを見直しファイルを作成すると共に保護者への周知する機会を設定する必要がある。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・時間帯も様々な時間に設定し、実施している。 ・避難訓練は定期的実施参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月いろいろな災害に備えて、避難訓練を継続していく。また、利用児の保護者への引き渡し訓練を実施していきたい。 	

非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13	0	1		・アセスメント等で情報収集をし個別に症状の発生時などの対応について主治医に意見を聞いて頂くように伝えている。内容の変更等があっても柔軟に対応していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0	3		・栄養士を中心に実施しており今後も個別対応で継続していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・現場で発生した事例を常に検証している。 ・子どもの転倒やひっかき傷など発見した時点ですぐに当該職員に伝え対処している。 ・日々の療育の中でヒヤリハットの気付き時に、終礼時等で確認しています。 	・ヒヤリハット事例を取り上げて検証しリスク回避ができるように検討会義をおこなう。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	2		・人権虐待防止セルフチェック表を3ヶ月毎に実施し所属等に提出したり、行動基準・倫理綱領の読み合わせ等を行い意識強化に努めている。内部研修に取り入れている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11	1	2	・身体拘束は現在行われていない。	・必ず契約時に説明を行い、必要に応じて支援計画に取り入れて保護者への説明を丁寧に行う。